



平成28年度 小久保保育園

■ダラダラ叱りが子どもへもたらす悪影響

出典: <http://itmama.jp>

ダラダラ叱りは、なぜ効果がないのでしょうか？それは子どもの集中力が長くもたないからです。子どもにダラダラと叱っても、だんだん子どもは話を聞かなくなってきました。

ママが叱っているときの子どもの中は「早く終わらないかな？」と終わることを考えていたり、そもそも「なんで怒られてるんだっけ？」と叱られている原因を忘れてる子もいます。女の子の場合は叱っている理由を理解してくれることも多いですが、男の子の場合はだいたい忘れてしまっており、また同じことを繰り返して、同じように長く叱ってしまうことがおきます。

さらに子どもへのよくない影響としては、ママの機嫌をうかがうようになってしまうことです。原因がわからないので、「よくわからないけどママの怒ることはしないでおこう」と子どもの創造性に溢れた自由な行動が制限されてしまう恐れがあります。

また、ママとしては本来叱って伝えたいことがあるのに、子どもが怒られないよう行動するようになっては学ぶ機会も少なくなってしまうます。



■「子どもにきちんと伝える」叱り方のコツ

ダラダラ叱るのではなく、“厳しく、短く、後を引かず”が叱り方のコツです。

そして、なぜ叱っているのか理由をきちんと説明すること。

子どももスパッと言われて叱られた方が響きますし、お互いすっきりしますよね。

こういう叱り方はママよりも男性のパパの方が上手だったりします。また、ついつい怒っていると、子どもに対して自分の怒りや育児のストレスをぶつけてしまいがち。実際、それでスッキリするわけでもなく、後から後悔してしまうママもいるかと思えますので、できるだけ短く、言いたいことを伝えることが子どもにとっても、自分にとってもプラスになるのではないのでしょうか。「短く言って本当に伝わってるの？」と思ってしまう方は、短く叱った後に、子どもに対して「なぜ叱られているかわかってる？」と理由を答えさせるのもいいですね。もし、そのままきちんと答えたら「次からは気をつけて」と伝えるだけでいいですし、間違っていたら「違うよ。こういうことを伝えたかったの。」ともう一度言えば、子どもも理解が深まるはずですよ。



■逃げ場がなくなっちゃうからNG！パパとママで役割分担をしよう

叱った後、子どもと何もなかったかのように接することができればいいですが、落ち込んでしまう子もいます。

その場合、夫婦で叱り続けるのはよくありません。

ママにもパパにも叱られたら子どもは逃げ場がなくなってしまうます。

できるならパパが叱ったときはママがフォローするなど、役割分担して子どもと接するとよいでしょう。

子どもが叱られても大事にされていると感じれば、叱られたルールは守りつつも親の目を気にすることなく、自分で行動できるようになると思います。

いかがでしたでしょうか。先日、電車の中でスタンプラリーをしている親子を見つけたのですが、5歳くらいの子がお友達の分の用紙を置いてきてしまったらしく、ママにすごい叱られていました。

ママは「何やってんの？」「あーあ、友達がかわいそう」と子どもを責めた後に、「どうするの？」と子どもに判断を求めていました。

子どもからすると悪気はなかったと思いますが、ひたすら責められ判断を求められても何も答えを出すことはできないですし、とてもかわいそうな感じでした。

ママとしても暑い中イライラしていたかもしれませんが、こういうときも短くスパッと叱って、「じゃあ、こうしよう」と次に楽しくなれる提案を子どもにしてあげるといいですね。

お互い楽しむためにスタンプラリーに来たのですからね。

